

NPO法人

志免地域支え合い互助基金

2022年度 会報誌

2023.6.1 発行

Vol. 5

2022年度 会報誌

理事長ごあいさつ 2
理事・推薦人紹介

活動のご紹介 3

2022年度活動 4
報告

2023年度運営 15
について

2023年度 スローガン

『温故創新』

暮らしたかった志免町。愛着のある志免町で暮らし
続けたい.. どの時代も変わらぬ想い。

時代が変わった。私達の意識ややり方を変え、
新たなやり方や仕組みで、先人から変わらぬ想い
を実現させていこう！



このマークは、「志免地域支え合い互助基金のシンボルマークです」
原案を考えて下さったのは、2020年9月当時、志免中学校3年生だった宮島 煌(ミヤジマ キラ)さんです。

理事長 ごあいさつ



NPO法人 志免地域支え合い互助基金
理事長 青戸 雄司
(社会医療法人栄光会 副理事長
社会福祉法人栄光会 理事長)

2021年度が終わり、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年問題がもう目の前に迫ってまいりました。

医療・介護保険制度などの「公助」制度がカバーできない部分を補う「互助」機能を持つ法人として2018年6月において、『NPO法人志免地域支え合い互助基金』が設立されて、6年目となります。

2022年度が終わり、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる、いわゆる2025年問題がもう目の前に迫ってまいりました。さらに、少子化による急速な人口減少と高齢者人口がピークに達すると言われていて2040年問題があります。2040年には、1971年～1974年の第二次ベビーブームに生まれた団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者に

なる年であります。

そのように、我が国はますます急激な少子化・超高齢化・多死・人口減少社会へ進んでまいります。それに伴い、深刻な社会問題として、経済的理由で介護保険さえ受けられない「介護離民」、年金が唯一の収入源であり他に支えがない「年金生活困窮者」、地域とは孤立している「独居世帯」、「孤独死」など多くの課題が山積しております。

また新型コロナウイルス感染拡大が始まってから3年以上が経過しました。この感染症によって社会のいろいろな面において地域での絆が断たれてしまいました。当法人もコロナ渦にあつて思うように活動できませんでしたが、本年5月8日をもって感染症法上の2類から5類へ変更となり、いわゆる新型インフルエンザ感染症と同等になりました。第9波の可能性もなくはありませんが、今後はウイズコロナの中にあつて、コロナ感染症以前にも増して、支援活動をより一層 持続発展させていく所存です。

どうか、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

理事紹介



副理事長 宮本 陽子
(福岡県民生委員・児童委員協議会 理事)

2023年度がスタートして、それぞれの活動もコロナ以前の状態に戻りつつあります。

一方で、少子高齢化は我々の想像以上に進んでいます。お互いが支え合う体制をしっかり作っていく必要があります。志免町で安心して暮らしていけるよう頑張っておられる方々を支援するべく私共の活動をより充実させて参ります。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



理事 渡邊 明
(志免町シニアクラブ連合会 会計)

2018年から始まったこの活動も、今年で6期目を迎えました。どれ程の成長が出来たのだろうか？ どれ位、志免町の皆さまのお役に立てたのだろうか？ 本年は、認定NPO法人格の取得を目指す準備の年になります。その要件を満たす事は、志免町の皆さまのお役に立っている事に通じています。本年も、誠心誠意に取り組んで参ります。どうぞ、宜しくお願い致します。



監事 山田 忠政
(桜丘一自治会 会長)

当NPO法人では「認定NPO法人格」の取得を目指していますが、行政等関係団体及び住民と協議した互助の仕組みづくりを図り志免地域支え合い互助基金活動を更に強化展開して行く事が喫緊の課題ではないでしょうか..

この課題達成のため微力ながら貢献できればと考えています。

推薦人紹介

～私たちの活動趣旨に賛同し応援して下さる方々です～

中村学園大学

中村学園大学短期大学部 学長

株式会社 西日本新聞社取締役編成局長

株式会社 西日本シティ銀行 代表取締役会長

粕屋医師会 会長

志免町シニアクラブ連合会 前会長

久保 千春 先生

田川 大介 氏

谷川 浩道 氏

松尾 喬之 先生

山田 喜一郎 氏

(芳名五十音順)

設立趣意

住民の方と専門職が協働し、地域で支え合う互助の文化をつくろう!

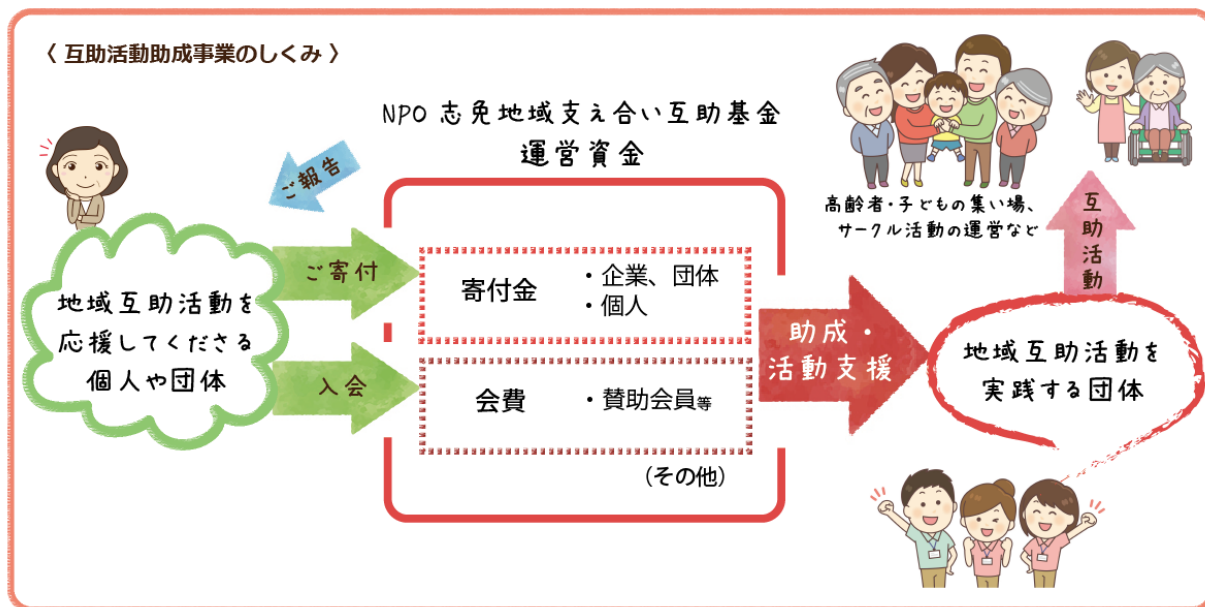
事業目的

この時代、これからの時代に、高齢者の方々や生活困窮の方々の生活を支え、安心してこの町で暮らすことができるようになるには、自助・共助・公助だけでは難しい。やはり、ここに住民同士や住民と専門職等が協働する「互助」の仕組みが必要不可欠です。

私達は、地域で困っている方々を『ほっとけない』想いで支える活動をしている互助団体を継続的に支援できる仕組みを確立し、住み慣れた場所で人生最期まで安心して暮らせる町づくりに貢献することを目的に活動しています。

事業概要

1. 互助活動助成事業：地域で互助活動をおこなっている団体へ助成をおこない、互助活動の推進・継続を支援します
2. 広報啓発事業：私たちの活動を広く知って頂きご支援いただくために機関誌の発行やセミナー活動など、さまざまな広報活動を行います
3. 互助活動コーディネート事業：私たちの活動が橋渡し役となり、互助活動に携わる人と人、活動と活動をつなぎ、支援の輪が広がることを目指します



法人概要

名称	特定非営利活動法人 志免地域支え合い互助基金
設立年月日	平成30年6月8日
理事長	青戸 雄司
URL	https://shimekikin.jimdofree.com/
住所	〒811-2205 福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1 医療介護施設かめやま内
TEL	092(692)1512
メールアドレス	shimekikin@gmail.com

1

防災Eatプロジェクト

毎年、全国各地で自然災害が発生する時代。当基金でも、チーム田中屋さんの被災地支援に2年続けて助成を行ってきた。その一方で、志免町がもし被災したら..を想像すると、その準備はできているのか？ そう想い、2022年度の活動に『災害支援』に関する項目を入れていた。

『被災した時にどうやって栄養を摂るか？ 私がやらんで誰がやるの.. 私しかおらん!』その心意気を持ち、2022年、1人で防災Eatプロジェクトを立ち上げた人から助成及び活動サポートの相談を頂いた。

被災地とはどういう状況にあるのか？ 被災した際、水や電気はどうなるのか？ 被災した際、トイレやお風呂はどうなるのか？ どうやって清潔を保持するのか？ 伝染病に罹らない為にどう対処すれば良いのか？等々、多くの志免町住民が被災の経験がない現状ではあるが、それらを学び実習し自分のモノにしていく場がない地域社会であった。

この現状を打破しようと立ち上がったのが、志免町在住の管理栄養士「江副貴子」さん。

メンバーとして古高優子さん、田中清昭さんが加わり、志免町の中に『防災Eat』の意識と行動の変容をもたらす活動を開始した。

防災Eatに関する講座と実習は、まず1クール6回を実施する計画に対し助成をさせて頂いた。2022年度から2023年度にかけ6回実施し、その経験値を以て仲間を増やし、この活動の輪を志免町全域に広げて行く計画。

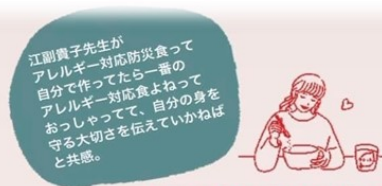
皆さま、『防災Eatプロジェクト』へのご支援とご鞭撻を、今後ともよろしくお願い致します。

＜助成理由＞

以下の様な理由により「防災Eatプロジェクト」に対し、助成が決定しました。

- ①住民の「生きる力」を支援する上で、継続して実施をして欲しい活動である事。
- ②志免町全地域で開催されるべき活動である事。
- ③この活動を「助成」及び「コーディネート」でサポートさせて頂ければ継続して行える。

＜助成金額＞
80,000円



お陰様で第3回講座は満員御礼です

miko_kanpou

防災Eatプロジェクト
第③回防災食講座

講師 管理栄養士 江副貴子先生

4/23(日) 被災者の姫野さんの体験談

10:00~12:30 断水を想定した調理実習

参加費：500円

◎場所：医療介護施設かめやま
もってくるもの：参加費、エプロン、三角巾

◎定員10名様(要予約)

TEL0120-35-2304 (ミコー薬局)

miko_kanpou【防災Eatプロジェクト】
お陰様で、4/23(日)開催の第3回防災食講座は満員御礼と...



2) 互助活動広報啓発事業

1

2020年2月より新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、法人の活動報告会を開催する事ができませんでしたが、2022年10月8日(土)、感染予防対策を図りながらハイブリット方式にて活動報告会&座談会を開催いたしました。当日は、対面・リモートを含め25名の方にご参加頂きました。

活動報告会&座談会

開催!

(2022年10月8日)

前半は、時代背景や全国の事例をご紹介させて頂きました。

互助の担い手と期待されている町内会や各コミュニティ組織。いずれも後継者不足の問題を抱え、加盟者が減少する状況になっています。互助の担い手であるこれら組織が機能しないとうなるのか?ほっておけない現実が想像できます。

その中で、全国的に活性化している町内会やコミュニティ組織は、自組織の見える化を図り、現状を共有できるような運営を行っています。特に、鹿児島市のとある町内会では、当時高校3年生が町内会長を務め、町内会内が現状どのようになっているかデータ化をし、一目で町内会の現状がわかる様にしました。

それらを町内会住民に説明し課題を共有する中で、町内会の高齢者さんが町内会の若手を中心になって進める活動を後押しする展開になっているという話をさせて頂きました。

後半は、王子八幡町内会の伊藤会長(当時)、別府3町内会の藤田会長に登壇頂き、各々の町内会で取り組んでいる「福祉のまちづくりプロジェクト」についてお話を頂き、質疑応答の時間を設けました。各町内会とも、町内会の状況把握をする為、住民アンケートを含め志免町社会福祉協議会と実施しました。その結果、王子八幡町内会では「生活サポート隊」が誕生。別府3町内会では「生きる力支援推進会議・配食サービス。そして今後、福祉サポーターを各組に配置する」という動きが生まれています。これらについてお話を頂きました。王子八幡町内会では、生活サポート隊の70%が30代~40代です。また別府3町内会でも青年団を結成し、住民の困りごとに対応する活動を行っています。

志免町は、コミュニティスクールの時代となりました。

今後は、縦割れの活動ではなく、多世代・多組織が、それぞれが持つ長所を活かし、相手の短所を補う支え愛の気持ちを持って協働する時代にしていきたいと思います。と締めくくられてこの会は終了しました。

活動報告会の一コマ



座談会の一コマ



2

『いきがい・助け合いサミットin東京』分科会26に登壇。

2022年9月1・2日に開催された さわやか福祉財団主催の『いきがい・助け合いサミットin東京』分科会26『住民運動の推進拠点をつくる地方自治体』にお招き頂きました。

超高齢社会・人口減少社会・多死社会..等を初めて体験する時代の中、どの様にしてその時代に対応すべきか悩んでいる地方自治体が多いと思われます。

その中でも目の前に困った人がいて、その方を何とか助けたいという想いを持つ住民の方々がいます。

そんな住民の方々を住民でサポートしようと始まったNPO法人志免地域支え合い互助基金の活動。そのお話をする為にお招き頂きました。

全国には、同じ想いで活動する団体が幾つもあります。そのほとんどが行政が中心になり活動をしているのですが、『住民が住民のために..』の仕組みで活動を行っている団体は弊法人のみでした。

変化の著しい時代になっています。速やかにそれに対応していく為には、志ある住民を住民が支える。その仕組みが必要。その事が全国に行き、良くわかったと共にモチベーションが上がりました。

この時のご縁により、さわやか福祉財団さんが自身で発行する全国情報誌『さあ、やろう！』に於いて、志免町のこと、弊法人のことを記事にしてくださいました。とてもありがたい事です。

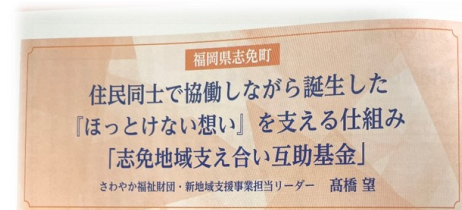
日々、想い通りに物事は進みませんが、こうしてサポートを頂ける事に感謝の念が湧いてきます。支えて頂く事のありがたさが身に染みてきます。

この想いを胸に抱き、志免町地域の方々のために尽力をして参ります。

サミット・パンフレット



掲載されました



第3部パネル 2日(金) 13:00~15:00

国際館ハミール 1階 曙光 ぎょうこう	分科会 ② 新規 住民運動の推進拠点をつくる地方自治体
【進行役】	堀田 力 (公財)さわやか福祉財団会長
【アドバイザー】	浅野 史郎氏 (公社)日本フランソロビー協会会長
	梶田 雅美氏 能美市いきいき共生連
	小田 和夫氏 (社)宮津市社会福祉協議会会長
	松岡 武司氏 倉敷市第1層S.C
	鷹尾 剛氏 (特財)志免地域支え合い互助基金

3

志免中学校有志と行う『支え合い新聞部』

「ほほえみ結ぶ・しめ新聞」創刊号発行！



4

2021年度の会報誌発行



5

志免町まちづくり支援室への団体登録



6

『志免町社会福祉協議会 社協だより』208号にて 広報を行いました。



社会医療法人栄光会さまのご厚意により、志免町社会福祉協議会が発行する「社協だより」208号内の広告欄を譲って頂き、日頃からの感謝の気持ちを伝えさせて頂きました。

会員の皆さま、寄付を頂いている皆さま、ご支援を頂いている皆さま方、改めましてになりますが、この場をお借りしまして、日頃からの『ありがとうございます』の気持ちを伝えさせていただきます。
志免町の皆さまのお役に立てれるよう尽力いたします。
ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

7

支援貯金箱

2022年度から就任して頂いた山田監事の尽力により、志免町のほとんどの町内会様が『支援貯金箱』の設置をして下さいました。ありがとうございます。



貯金箱 右面



貯金箱 正面



貯金箱 左面

◎2022年度は、55個(2023年3月31日時点)の設置をして頂いています。

【貯金箱を置いて頂いている方々をご紹介します。】

◆町内会

30町内会、ほぼ全ての町内会さまが公民館に設置をして頂いております。特に、『成和町内会』様に於かれましては、弊法人の説明会や数度にわたるご寄付を頂戴しました。ありがとうございます。

◆法人の方々

・富士正醤油醸造元	藤 浩太郎 様	・亀山郵便局 様
・コカコーラボトラーズ	稲益 一生 様	・南国殖産 大迫 瑞生 様

◆個人の方々

・渡邊 行子 様	・神永 直美 様	・薙野 幸子 様
・薙野 澄男 様	・手島 秀夫 様	・岡本 文子 様
・松崎 尼代 様	・斎藤 龍治 様	・藤 慎一郎 様
・山川 幸子 様	・矢野 玉紀 様	・牛房 京子 様
・高野 政則 様	・柴田 京子 様	・伊藤 和子 様
・神谷スミ子 様	・山本紘一郎 様	・宮本 毅 様
・安田 豊重 様	・堤 久美子 様	・宮本 陽子 様
・渡邊 明 様	・鷹尾 剛 様	・小柳 郁子 様
・下稲葉主一 様	・中山 裕子 様	

【2022年度 支援貯金箱から頂いたご寄付】

貯金箱が満タンになった方々より、148,036円のご寄付を頂きました。この場をお借りいたしまして、御礼を申し上げます。ありがとうございます

貯金箱を置いて下さい。よろしくお願ひします。

8

2019年から始まった「支援自販機」事業ですが、今年度は17台になりました。
この事業から、年間合計231,042円ものご寄付を頂きました。ありがとうございます。

【ご支援を頂いている皆さま】

支援自動販売機事業



(有)田中屋 代表 田中 清昭さま

(株)西日本シティ銀行 志免連合店
支店長 田中 浩さま



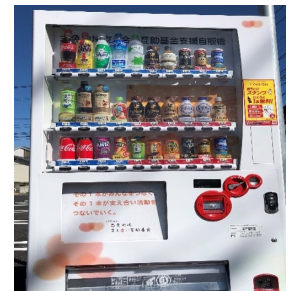
(株)大心 代表 牧 昇さま



しめ寿司 料理長 佐々木 竜二さま



(株)進明技興 代表 谷 清昭さま



(株)ゼンケン 代表 伴 義弘さま



(株)K's物流サービス
代表 久保 大輔さま



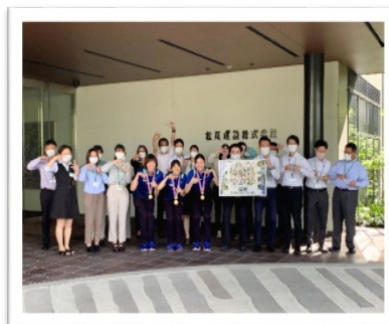
HearSalon NAKAO
代表 中尾 浩二さま



社会医療法人 栄光会
理事長 井上 裕さま



(株)飯田工務店
代表 小山田 義人さま



松尾建設(株)
代表 松尾 哲吾さま



コカ・コーラボトラーズジャパン(株)
ペンディング東福岡支店 支店長
支店長 稲益 一生さま

9

ホームページのリニューアル 及び ソーシャル ネットワークワーキング サービス(SNS)を活用した広報啓発活動

新型コロナウイルスの蔓延によりデジタル時代が急速に進み始めた2021年。中高年で法人運営をしていた弊法人としては、その変化にいち早く対応する必要があります。

また、次代を継承者する団塊ジュニア世代やその子供達である学生の皆さんとも繋がり、相互理解をし合い、協働していく必要も感じていました。

2021年度から、生まれも育ちも志免町の「吉村和也」さんにご縁を頂き、SNS等を活用した広報啓発活動を行うためITアドバイザーに就任して頂き、2022年度も引き続きご指導を頂きました。

- NPO法人志免地域支え合い互助基金 ホームページのアドレス。 <https://shimekikin.org>



←ホームページ
トップ画面

リーフレット→

QRコード



【活動報告】

●2022年度、吉村ITアドバイザーとの協働。

- ① 各委員会 及び 会合(総会・活動報告会⇒オンライン担当)への出席(状況把握と情報発信)。
- ② ITを活用した広報啓発事業戦略の企画立案。
- ③ ホームページのリニューアルと情報把握及び分析。
- ④ 支え合い新聞部の活動。
- ⑤ リーフレッツの企画及び制作.. 等、多数にわたり協働をして頂きました。

●2022年度におけるFacebook活動の結果報告。

・フォロワー数	143名	・男女比	男性58%	女性42%
・ページの合計「いいね」数	133名	・年齢層	45歳～54歳が最も多い。	
		・地域別	糟屋郡内が最も多い。	

●ブログ活用 及び SNSの活用 を行って良かった点

- ・情報発信によりネットワークが広がった。
- ・情報発信は活動を客観的に考察でき軌道修正の意識を高めることに繋がった。
- ・情報発信が情報受信へととなり、法人の力になる事が確信できた。

【2023年度の目標】

- ① 社会的インパクト評価を受けるに値する情報発信を目指す。
- ② 月に1,000人の方がホームページに訪れて頂ける様にする。

10

『親の老いとリアルなお金のはなし』5回連続講座シリーズ 開催！

2023年2月より、新機軸である講座による広報啓発活動を開始しました。

『在宅ときどき施設』『在宅、さいごは施設』という時代のなか、医療も介護も生活の場である在宅で受けながら生活を継続していく時代になっています。

2025年より、団塊の世代の方が75歳以上の後期高齢者になります。

ここで予想されているのは介護を必要とする人の急増です。一方、医療や介護に従事する人の数はなかなか増えない状況にあります。従って、今ある介護施設は、常時満室状態が予想されます（現状、既にその状況にあります）。施設で暮らす事になれば、生活支援も含めて行ってくれますが、自宅となるとその多くを誰がするのか大きな課題です。

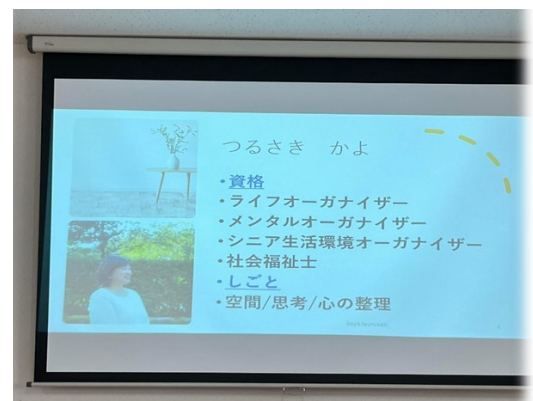
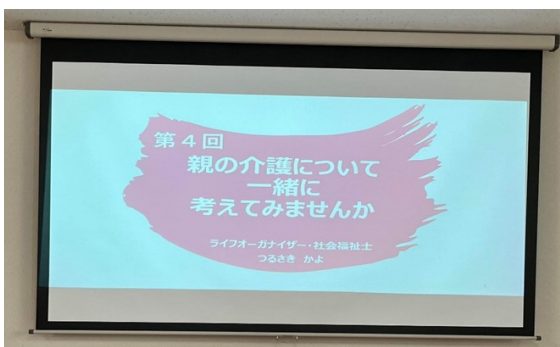
その現状を団塊ジュニアである40代に理解して欲しい！今のうちからそういう事を想定して準備をはじめて欲しい！私たちと共に行動する仲間になって欲しい！その想いを込めて発想をした講座です。

マスター講師として鶴崎佳世さんをお迎えしました。40代の鶴崎さんは、若くしてご両親の介護を在宅で行い、大変ご苦勞をされました。特に、考えの整理や制度の把握、生活支援サービスの必要性等、医療保険や介護保険以外の事をよく知っておく必要性を感じ、その経験をお伝えする為に活動をされています。

今回は、定員10名で開催させて頂いています。参加者の約8割が40代の方。

ワークを行う講座を行ったあと茶話会を行い、お互いのことを知りつつ、コミュニケーションをはかり、仲間として活動をしていこうという機運が出てきた状況です。

今後も、こういう講座方式での広報啓発活動を継続的に行っていきます。



1

NPO法人いるか様との連携協定

2022年9月、NPO法人いるか様と、志免町内における『子育て支援及び子ども学習支援』を目的に連携協定を締結しました。

NPO法人いるか様は、2022年3月末まで志免町子育て支援課と連携協定を締結し、志免町内の子供達に向けて『多機能型子ども食堂』や『学習支援』に関する活動を行ってきました。

その活動の継続を希望していたNPO法人いるか様と、『暮らしの保健室』的な場所が各地域に必要だと感じる共に、子ども達の第3の居場所も必要だと感じていた弊法人の問題意識が共鳴し合い、その運営をいるか様が行い、弊法人は、広報や運営できる場所探し等、この活動をサポートする役割として連携を致しました。

その後、双方を知る為にZOOMにより、いるか様の事業内容や多機能型子ども食堂についてご教授いただくなど、コミュニケーションを取りながら連携を強固にする活動を行って参りました。

またいるか様の常設型である多機能型子ども食堂を10数名の有志の方々と見学に行き、その運営スタイルを学ばせて頂きました。

これらの積み重ねにより志免町での構想を練り上げ、志免町内の校長会議の席でその構想について話をさせて頂きました。

2023年度は、次の目標を掲げて活動をしていきます。

1. 『多機能型子ども食堂』を志免町の小学校区に1ヶ所つくること。
2. ボランティアに関するプラットフォームをつくる為の活動を開始する。

皆さま、共に汗をかく仲間としてご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



2

『よさこい』を通じて子ども達の健全育成を目指して活動し続けるために..

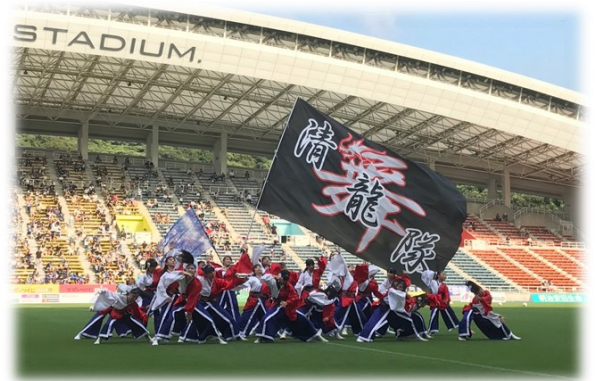
志免町で20数年『よさこい』を通じて子ども達の健全育成を目指して活動している『志免清龍隊』という団体が存在しています。きっかけは、多感な中学生がエネルギーを注げる何かをつくる必要がある！と感じた事でした。その中で、人は健全に育成できる！そういう信念のもとに『よさこい』という全身を使いながらチームで人に元気を伝える。応援する気のエネルギーを贈る活動を始めました。

当初よりボランティアで活動し、ただただ思直に子ども達が演舞する機会を求めて各地を回ってこれられました。しかし年々と時代が変わり、代表である南里泰子さんも『後継』のことを考える時を迎えます。

そこでこの活動を法人化し、全くのボランティアではなく、交通費等が出せるような運営に切り替えるべく、2022年の10月に『NPO法人咲良』を立ち上げます。

その運営について、正会員の田中清昭さんを通じてご相談を頂きました。

現在進行形で、お手伝いをさせて頂いています。



3

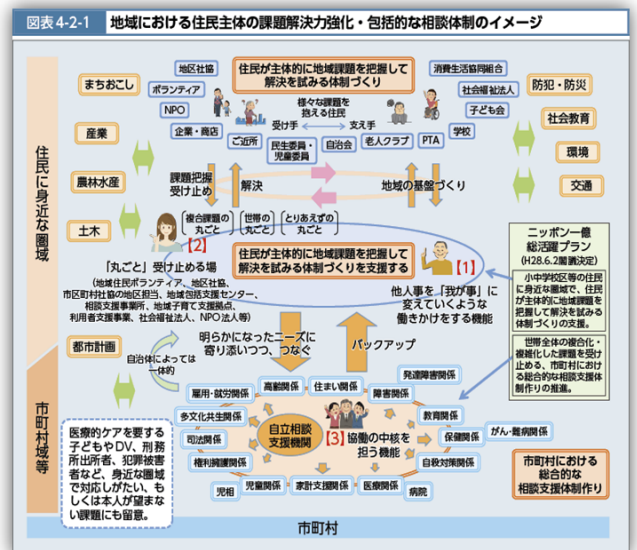
野良猫問題とどう向き合うか？

2022年は、志免町内にある『野良猫』に関する問題に関する相談を頂きました。

相談の内容としては、『野良猫』問題を解決する為に活動する個人の方への助成でした。

弊法人が音頭を取って資金を集める事ができないか？という内容です。事務局としては、この問題の本質は何かについて協議し、その解決に向けて動く事が最優先だと判断しています。それは『野良猫』問題の本質を住民と学ぶ場をつくり、その解決に向けてチームを構成し、そのチームを支援するという内容でした。

現在、志免町がこの問題について活動する団体に資金援助をする為にクラウドファンディングや啓蒙活動を地道にされていますので、弊法人としてはその推移を見守るといふ姿勢です。



4) 2022年度 賛助会員・寄付の状況

2022年度に頂きました、ご寄付及び賛助会員数と金額について
ご報告をさせていただきます。

【ご寄付及び賛助会員総数並びに総額】

●ご寄付及び賛助会員総数 136件 ●ご寄付及び賛助会費総額 809,360円
※認定NPO法人取得要件に即した場合の総数 97件

（ご寄付及び賛助会員並びに総額の内訳）

●個人 107名 ●ご寄付及び賛助会費総額 502,370円
●法人・団体 29件 ●ご寄付及び賛助会費総額 306,990円

（貯金箱プロジェクトの内訳）※なお当寄付金総額は、上記金額に含まれています。

●2023年3月末現在 設置をして頂いている個数 55ヶ所・55台
●2022年度にご支援を頂きました寄付金総額 148,036円

（支援自動販売機の内訳）※なお当寄付金総額は、上記金額に含まれています。

●2023年3月末現在 設置をして頂いている台数 11ヶ所・14台
●2022年度にご支援を頂きました寄付金総額 231,042円

2022年度も、多くの個人・法人・団体の皆様方のご理解とご協力により、
多くの資金をお預かりさせて頂くことができました。

ありがとうございました。

目標にしています『認定NPO法人化』への道のりはまだ遠いですが、
できる限り多くの皆さまに支え合い活動の必要性を発信し、活動が生まれ、その活動を
支えていく財源として役立てれるように致します。

2022年度は、デジタルを活用した広報活動及び『ほほえみ結ぶ・しめ新聞』の創刊号を
発行しました。
いづれも、支え合い活動の必要性を理解して欲しい世代へアプローチをすることを目標とし、
中学生から40代の方々が、この活動に参加をして頂けるようになることを意識しています。

今年度は、また少し、その世代の方々との繋がりが深まりました。

2023年度は、継続的に活動ができる環境を整備し、より可視化された法人体制をつくり
多世代が関わりやすい法人になるよう成長していく所存です。

感謝



< 2023年度 運営について >

以下、2023年度の運営についてご説明をさせていただきます。

- 1) **スタッフ構成** 以下の通りです。
理事長 青戸 雄司・副理事長 宮本 陽子・理事 渡邊 明・監事 山田 忠政
事務局長 下稲葉 主一・事務局員 鷹尾 剛・中山 裕子
ITアドバイザー 吉村 和也
- 2) **法人運営委員会**
 - ・合同委員会 委員長 青戸 雄司
 - ・助成委員会 委員長 宮本 陽子
 - ・広報啓発委員会 委員長 渡邊 明
 - ・助成検討委員会 委員長 青戸 雄司
- 3) **法人改革目標について**
 1. 認定NPO法人格の取得 準備の年にする予定。
 2. 理事体制の見直し 3名体制 → 7名体制（学生・40代の理事）。
 3. 会員種の新設 サポーター会員を新設。
 4. 社会的インパクト評価に見合う法人運営及び情報公開と発信の実施。
 5. 事務局運営の効率化とアライアンス運営及びネットワークの拡大。
- 4) **各事業の目標**
 - **互助活動助成事業**
 - ・担当委員会 助成委員会 委員長 宮本 陽子 副理事長
 - ・助成目標件数 7件 ・助成枠金額 1,500,000円
 - **互助活動広報啓発事業**
 - ・担当委員会 広報委員会 委員長 渡邊 明 理事
 - **既存事業**
 - ・支援自販機 18台 ・支援貯金箱 55個 ・ブログ投稿 1回／日
 - ・ホームページ訪問数 1,000／月 ・支え合い新聞部 3回／年、1000部発行
 - ・2022年度会報誌 6月・200部発行
 - **新規事業目標**
 - ・法人説明会 3回／月のペースで開催。・セミナー、講座の開催 5本／年の予定。
 - **人事目標**
 - ・寄付、賛助会員数 150人以上 ・サポーター会員 30人以上
 - ・寄付金、会費総額 1,500,000円以上
 - **互助活動コーディネート事業**
 - ・各小学校区に1ヶ所の『多機能型子ども食堂』開設のサポートの実施。
 - ・ボランティアプラットホームの開設に向けた活動。
 - ・志免町町内会との協働活動。

NPO法人

志免地域 支え合い互助基金

NPO法人 志免地域支え合い互助基金

〒811-2205

福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1
医療介護施設かめやま内

電話 : 092-692-1512

FAX: 092-937-6141

E-mail: shimekikin@gmail.com

Web サイトもご覧ください

<https://shimekikin.jimdofree.com/>

ご寄付のお願い および 賛助会員募集のご案内

皆さまから寄せられるご寄付、賛助会費により
地域の互助活動を支援します！



NPO法人志免地域支え合い互助基金では、
活動を支援するためにご寄付くださる方、また
活動趣旨にご賛同頂ける賛助会員の方を募集しています。

ご寄付

※専用の振込用紙、および賛助会員申込書は
事務局よりお送りいたします。

法人・個人を問わず任意の額で結構でございます。

※寄付金の取扱いについて

- 個人(個人事業主)が寄付された場合
本寄付金は、寄付金控除の対象とはなりません。
- 会社・法人が寄付された場合
法人が他の会社・法人に寄付した場合と同様の取扱いとなります。
一般寄付金として当該会計年度の損金算入限度額の範囲内で
損金処理が可能です。

当法人は、税法上の優遇措置が適応される「認定 NPO 法人」の取得を目指しています。

賛助会員

【入会金・年会費について】

	入会金	年会費
賛助会員 (個人)	0円	3,000円
(団体)	0円	10,000円

【申込方法】

- ①「賛助会員申込書」にご記入の上、事務局まで Faxまたはご郵送にてお届けください。
- ②年会費をお振込ください。

支援自動販売機 及び 設置者紹介 のお願い



左の写真のような
自動販売機を
設置しても良いと
言われる方を
募集しています。
皆さん、どうぞよろしく
お願いします。

ご寄付・会費の振込口座について

トクヒシメチイキササエアイゴジョキキン
口座名義： 特定非営利活動法人志免地域支え合い互助基金

西日本シティ銀行 博多支店【店番 217】(普通) No.3116590
福岡銀行 志免支店【店番 236】(普通) No.1770312
ゆうちょ銀行振替口座 01730-7-147585 (代表者名等なし)

編集後記

2022年度は、明るい未来を予感させる年度となりました。

吉村 ITアドバイザーとの連携により、ホームページをリニューアルする等、デジタル面での対応不足を補うスタートの年となりました。SNS等を活用した広報啓発活動に力を入れ始める中で、さわやか福祉財団さんが主催する『いきがい・助け合いサミット in 東京』に登壇させて頂き、全国の皆さんに志免町での活動を知って頂く機会を頂いた他、

全国的な流れと動きについても学ぶことができました。

2023年度は、「法人改革」を行い、活動の継続に向けた環境整備を行います。

(NPO法人志免地域支え合い互助基金 事務局)